

都市教養プログラム

自然と社会と文化

伊豆大島

八丈島コースの概要と学生の意見・感想



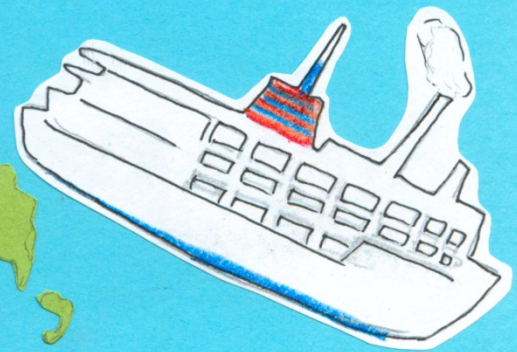
八丈島

伊豆諸島

小笠原諸島

弟島 兄島 父島

<http://www.tmu-edu-pjt.jp>



首都大学東京 傾斜的配分研究費

(特色ある教育プログラムを目指す研究) プロジェクト

2011年9月「自然と社会と文化」@八丈島

日程 2011年9月11～15日 4泊5日（船内1泊）

参加者 受講生16名、教員6名（日本語学：ダニエル・ロング、分子応用化学：金村聖志、生命科学：黒川信、観光学：倉田陽平、数理科学：小林正典）、学生アシスタント3名（生命科学：明石濤、渡邊礼華、経営学：小林純子）

<内容>

9/11 21:00 竹芝棧橋集合

Ice-breaking

ゲームを通して自己紹介などをしました。受講生同士、すぐに打ち解けることができました。

9/12 歴史・民俗の講座

底土回天基地跡、八丈島歴史民俗資料館、くさや製造所に行きました。くさや製造所では八丈島の名産のとてもおいしいくさやを頂きました。

東電地熱・風力発電所見学

普段は入ることのできない地熱・風力発電所の中を見学しました。八丈島は地熱、風力といった自然エネルギーを多く活用しています。八丈島独特の発電方法、東日本大震災震災後の変化についてなど多数質問をしました。

えこ・あぐりまーと（地熱利用農産物直売所）の見学

八丈島の自然産業を学びました。幹に実がなる木や、1度咲いたら枯れてしまう綺麗なハイビスカスなど、不思議な南国の植物を観察しました。

エネルギー・原発問題の討論（学生アシスタントによるテーマ設定・資料準備）

地熱・風力発電の見学や事前学習を通して、東日本大震災により発生した原発問題や、エネルギー問題を4つのグループに分かれて話し合いました。原発の将来について考え、白熱した討論になりました。

9/13 早朝釣り体験（希望者のみ）（学生アシスタント企画）

地元の方に協力していただき、釣りをしました。くさやの原料である「むろあじ」や「ヒメダイ」などが釣れ、受講生自ら調理し、夕食に頂きました。

黄八丈の見学

め由工房で黄八丈の起源や作り方を教わりました。綺麗な色の糸を、様々な模様で織る独特な方法はとても興味深いものでした。

戦争史跡見学

洞輪沢・震洋壕、東光丸碑、防衛道路竣工記念碑、陸軍司令部壕「鉄壁山」、大里陸軍壕、海軍砲台跡を見学しました。壕の中は、懐中電灯で照らさないと真っ暗でひんやりしています。迷路のような壕の中を探索しながら、当時の厳しい戦争や人々の生活について話を伺いました。



■ 黄八丈づくり体験 / 郷土料理作り体験（選択制）（学生アシスタント企画）

希望者ごとに分かれて、それぞれ黄八丈体験と料理体験をしました。黄八丈体験では、実際に黄八丈を織ることで、見学や事前学習での知識を体験に還元することができました。料理体験では、民宿の方に教わりながら島寿司などの伝統料理を作り、皆で頂きました。



■ 光るキノコ観察会（学生アシスタント企画）

夜に星を見ながら、屋外でキノコの観察会に参加しました。小さなキノコが光っている姿はとても神秘的でした。



■ 夜の講義

夜には、各先生方からご自分の専門分野と八丈島の関連事項をについて講義を受けました。また、翌日の町役場訪問、高校訪問にむけて、八丈島で気付いたこと、疑問に思ったことについて話し合ってもらい、質問事項を決めました。

9/14 ■ ビーチコーミング

海岸にある様々な漂流物を拾い、その中から各自気になった「宝」を探しました。有名なキャラクターらしきイラストがついた中国のライターや、おもちゃ、小さな靴などおもしろい「宝」を見つけることができました。

■ 町役場訪問

八丈島の観光、エネルギー、人口問題に関する意見、疑問を役場の職員の方に質問しました。今回の質疑応答を通して、twitterで八丈島についてつぶやくことが宣伝になるといったような話を聞くことができ、観光問題を身近に感じることができました。



■ 高校訪問（学生アシスタント企画）

八丈高校の学生と交流会をしました。こちらからは、大学の説明をし、高校生のみなさんからは島での暮らしについて話していただき、両者にとってよい機会となりました。（3ページ参照）

■ 八丈太鼓体験

海を背景に伝統的な八丈太鼓をグループに分かれて教わりながらたたきました。最後には、練習の成果を皆の前で発表し、盛り上がりました。



■ My 八丈島（学生アシスタント企画）

ビーチコーミングで各自一つ見つけた「宝」を写真や現物を持ちより、全員の前で発表しました。その「宝」はどこから流れてきたもので、どのようなものであるのかを想像豊かに話しました。

9/15 ■ 船内ミーティング

八丈島に別れを告げ、授業を振り返っての反省、感想を皆で共有しました。出発当初は、互いに知らない受講生同士が親しくなり、別れを惜しむ時間でもありました。

表紙、裏表紙のデザインを人文・社会系1年の澤千絵さんが行いました。

裏表紙は、八丈島に参加した学生の思い出のよせがきです。

また、1、2ページの八丈島での行動記録と3ページの高校訪問の報告は、学生アシスタント*として参加した生命科学2年の渡邊礼華さんが書きました。*授業の企画準備から実施に至るプロセスの補助を行う受講経験学生

東京都立八丈高等学校訪問について

<概要>

八丈島の高校に訪問し、進路説明会を行いました。八丈島の高校生と交流するとともに、大学生からは受験時代の具体的な話をしました。

<内容>

各分野の受講生 5 人*が前に出て学生アシスタントが用意した質問に答える形で、受験期について話をしました。その後、大学生と高校生を混ぜた 4 つのグループを作り、自由に話をしました。大学生は、島についての疑問を聞いたり、高校生は、受験について聞いたりして、互いに有意義な時間となりました。

*人文社会 1 年、経営学 2 年、理工学系（物理学） 2 年、理工学系（機械工学） 1 年、システムデザイン（インダストリアルアート） 1 年

～学生アシスタントによる質問と受講生（大学生）の質疑応答の一例～

Q.高校生活と大学生活で大きな違いはあるか。

A.自由であること。時間割を自分で考えるなど、責任が伴うようになった。行動範囲が高校時代より非常に広がった。

Q.受験勉強で工夫したことは何か。

A.通学中の隙間時間を活用したり、タイマーで自分の勉強時間を計って把握するようにしたりした。



～高校生と大学生のフリートークの一例～

Q.（高校生）模試の判定が芳しくなかったが、受験当時はどうだったか。

A.（大学生）模試によって判定が違うことがあるのであまり気にしなかった。夏の成績が悪くても、受験直前まで成績は上がるので心配しすぎなくてよい。

Q.（大学生）八丈島の暮らしはどうですか。

A.（高校生）自由に遊べる場所が多く、島での生活はのんびりしています。



2011 年度前期 八丈島コースの全受講生の意見・感想

本授業についての理解を深めていただくために学生の承諾を得て、2011年度八丈島コース全受講生の本講義の性質に関するレポート1～3と感想4を全文原文のまま掲載いたします。

- 1、「自然と社会と文化」の目的や内容の特徴を、ほかの都市教養プログラムや基礎ゼミナールなどの科目と比較して述べよ。
- 2、シラバスにある受講の目的に照らして、本科目を受講してよかった点を述べよ。
- 3、受講前と較べて自分が少しでも変わったと思う点を述べよ。
- 4、受講後の感想を述べよ。

人文・社会系1年女子

1、まず、他の都市教養プログラムは先生一人が前に立ち黒板やスライドを使って、比較的大きな教室で何十人・何百人という生徒がその講義を聞くという形である。討論をすることはほとんどない。基礎ゼミナールは、再履修者を除けば生徒は全員一年生で主にグループワークが中心である。グループで討論したりすることが多いが、座学に変わりではなく、積極性がないと全員の前で自分の意見を述べることはないので、全員が全員の考え方を知ることは難しい。

一方で「自然と社会と文化」は、座学ではなく実際の場所を訪れて、自分の目で見て、その場所に精通している人から話を聞いたりできるのがもっとも特徴的である。また、受講生も少人数のため討論もしやすく、全員が意見を言う場も設けられるので、だれがどんな考え方を持っているのかを知ることができる。さらに、この授業は基礎ゼミナールとは異なり、都市教養プログラムのひとつであるため、学年の違う人たちと交流できるのも魅力の一つだと思う。

2、いろいろなものを自分の目で見て、体験でき

たことが一番良かった。実際に行ってみなければわからないことがたくさんあるのだということに改めて気づくことができた。

3、受け身で授業を受けるのではなく、自分から学んでいこうとする積極的な姿勢が身についた気がする。これは自ら足を運んで見て、聞いて、体験することができたからだと思うが、今後、座学の授業のときでも自分の中に吸収しようという意識を持って授業に取り組もうと思った。

また、八丈高校で受験のことや大学生活について話させてもらったり、討論などでみんなの前で自分の意見を言ったりしたことで、以前よりも人前で話すことに抵抗がなくなった。

さらに、学年・性別・年齢の違う人たちと5日間ともにし、様々な考え方を聞いたことが私にとっては今回の授業でかなり大きなことで、今まで自分がいた世界は狭かったなと思った。

4、この授業を受講してよかったと思う一番の理由は、先生やTA、受講生の皆さんと出会えたことです。同年代の人と真面目な話題について真剣に討論することは日常生活においてめったにないこ

とだし、討論以外でもいろいろな人と交流できたことが一番楽しかったです。今回の授業で多くの人といろんな話をしたことで、まだまだ自分の世界は狭かったのだと気づくことができ、視野が広がりました。人との交流って本当に大事だなと思えたので、これからも積極的に交流を広げていこうと思いました。

個人的には八丈高校でとても良い経験をさせてもらい、感謝しています。私は、今回のように自分の母校で受験や大学生活について話すということを行ったことがあったので、今回の八丈高校でその経験が活かせるのではないかと思い、立候補させていただきました。母校で行ったときは、今回のような質疑応答形式ではなく、10分間自由に話すというものだったので、言いそびれたこともあったのですが、今回は言洩らししないようにしっかり伝えようと思って話すことができたのでよかったです。

また、私は教育に興味があり、2年次から教育学コースに進みたいと考えているので、今回複数の高校生と交流することができて、改めて教育についてもっと学びたいと思いました。「自然と社会と文化」という授業の中で、正直自分の専門に関連することは特にないだろうと思っていたのですが、最終的に自分の将来につながるようなことまで学ぶことができたので、この授業を受講して本当に良かったと思いました。

人文・社会系 1年 女子

1. 私が考えるこの科目の特徴は大きく分けて4つあると考える。

まず、何とんでもこの科目の1番の特徴は自

分自身で体験して、楽しみながら学ぶという点だろう。今回参加したことによって、自然の美しさ、歴史の重み、文化の多様性を肌で実感することができ、体験してみる、チャレンジしてみるということの素晴らしさを改めて感じた。他の都市教養プログラムの科目は、大教室で大勢の学生を相手に1人の先生が講義を行うという形式がとられているため、どうしても受身になりがちである。もちろん、試験前になれば自分なりに文献を探して自分の考えをまとめたり、準備したりするわけだが、試験のために勉強したことは結局すぐに薄れてしまったりすることが多い。だが、この科目で学び、実感したことはどうだろう。海や山の雄大さ、戦跡の陰しさ、くさや液の味とにおい、黄八丈の美しさと機織機の音、釣竿の感触、きのこの光などなど、たった5日間で多くのことを経験したわけだが、どれも鮮明に思い出すことができる。今回のように事前学習をし、実際に見聞きしてメモを取り、写真に収め、更にそれを討論で深めるというプロセスを踏んで得たことは、自分の一部分として一生忘れないものになるだろう。

第二に、他の都市プロはある1つのテーマに特化して講義が進められていくのに対し、この科目は島という大きな単位が学習の対象であり、中には数え切れないくらい学習のテーマが存在しているという点だ。そのため、自分の専攻にとらわれず、総合的な学習ができるとともに、自分の専攻にあてはまるテーマを見つけることもできるのである。私自身は人文・社会系に所属しており、エネルギー問題など理系の分野には苦手意識があったが、今回をきっかけに自分の考えをもつとともに、実際に目にすることで興味がわいて、エネルギーに関するニュースにも以前よりも注目する

ようになった。また、普段社会学の勉強をしているだけでは絶対に触れられない島の自然や生物、食文化などから島の魅力と多様性を感じ、専攻にとらわれず更に色々学んでいきたいという意欲が増した。他にも、今回、数理化学コースの小林先生は玉石垣を見て数学的なインスピレーションを得るなど、思わぬことが学問につながる瞬間があった。島のまるまる全てが学びの対象、そのことがこの都市プロの魅力なのである。

第三に、ただ体験をしたり話を聞いたりするという受身の授業ではなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められるという点だ。仲間との討論を普段する機会はなかなかないが、情報を取り入れ、そこから得た自分の考えをいかにわかりやすく伝えるか工夫する、つまりアウトプットすることで、学んだことが整理されるのである。また、質問をする機会も多くあったため、自分の興味のあることを更に突っ込んで学ぶことができたし、質問が更に話題を広げるきっかけになったり、他の人の質問が非常に参考になったりと、今後の学習にもヒントになるようなものを得ることができた。

最後に、色々な考えをもった仲間と過ごすことができるということだ。専攻や学年もバラバラで、この科目を選択しなければ会うことができなかった人もいるはずである。しかし、この5日間で真面目な討論も、他愛ない話もできる大切な仲間になることができた。様々な仲間に出会うことができるのは大学ならではのということを改めて感じ、この出会いを大切にしていきたいと思う。

様々なテーマを実際に体験して学び、仲間とともに積極的な姿勢で質問や討論に取り組み、更に学びを深めていく、という効果的なプロセスを楽しみながら体験できる都市プロはこの科目だけな

のではないか。

2. 今回受講して最もよかったことは、普段学校で社会学の勉強をしているだけでは絶対にできない体験ができたこと、そしてそれを自分の専攻にとらわれず幅広い視点で深められたということだ。普段の生活ではどうしても1つの視点にとらわれてしまいがちだが、八丈島で様々なものに触れたことによって、物事は全て関わりあって成り立っているのだということを知ることができた。具体的な例で言えば、独特の文化(黄八丈や食文化など)やクリーンな発電方法ができた背景には自然の恩恵があるわけだし、地域社会の活性化には生産業、観光業、雇用の創出など様々なものが密接に関係してくるし、深い歴史を受け継いでいくためには教育だけでなく観光も鍵になってくる。大学の学びの枠で言えば、国際文化コースの対象に実は都市基盤環境コースの分野が関わっていたり、社会学の対象が自然・文化ツーリズムコースに関わっていたり、といったことだと思う。1つの物事の背景にはたくさんの事柄が絡み合っているものであり、その存在を忘れてはいけない。自然も、歴史も、文化も、どれか1つで成り立つものではないのだということを感じた。また、専攻が違ったり、考え方が違ったりする仲間と出会い、討論をしたことも幅広い視点で物事を考えるのに役立ったと思う。

私は2年生から社会学分野に進むという目標があるが、その一方で他にも色々なことに興味があって、学びの対象を絞り込むことに難しさも覚えている。そんな中で今回の授業では様々なものを目にすることができ、色々なことを学ぶ機会はこれからもあるし、色々なものに興味をもつことは

悪いことではないと教えられたような気がした。これから、1つの物事を「これだ!」と決め付けず、様々な視点や立場から検証していくことができる能力をもっともっと養っていききたいと思う。

3. 第一に、積極的な姿勢の大切さを再確認したことである。高校生のとき、プレゼンやディスカッションをする機会がかなりたくさんあった。それらの活動を通して、同年代と意見をぶつけ合って同じものを作っていくこと、主体的に学んでいくことの面白みを見出していた。だが、大学に入学してから、授業の多くが大教室で行われ、課題のほかに部活やアルバイトなどに追われて毎日受身の姿勢で過ごしていたように思う。いつの間にか、「とりあえず言われたことだけきちんとやれば楽だなあ」、「討論とかは面倒…」という気持ちが出てきてしまっていた。しかし、今回の授業で討論の機会が与えられ、再度その面白みが思い出され、もっと色々な人と話をしてみたい!と強く感じるようになった。また、質問をすることで更に学びが深まっていくことを実感し、今後の授業でももっと質問をしたり、自分なりの着眼点をもって取り組んだりすると面白くなっていくのでは、と感じた。せっかくの大学生活、自分の好きなことをとことん追求したり、色々なことに取り組んだりしてよい4年間なのだから、学びの面でもっと食欲にならなければもったいないという気持ちが出てきた。その中で、一緒になって夢中になれる仲間を得ることができれば良いと思う。

第二に、まだまだ知らないことがたくさんあると気づいたということである。まだ19歳、そんなことは当たり前なのかもしれないが、色々なところへ行って色々なものを見るという経験は、本当

にいい思い出になるし、自分の構成要素のひとつとなって様々なところに生きてくるのではないかと感じた。自分はまだまだ発展途上、若いうちに色々なものを見て、感性を豊かにしていきたい。そして、そのためにも今回のようにチャンスは絶対に逃さないようにしていきたい。

4. 5日間、本当に充実した楽しい日々を過ごすことができるとても満足している。「勉強は机に向かうだけじゃない」と強く感じた。行ってみないと分からない島の魅力、歴史の重さ、文化の多様性を知ることができた。ならば、ただ「楽しかった」で終わらせることなく、大学祭での「自然と社会と文化」のブースに参加するなどして、この経験を周りの人に伝えていきたいし、今後の学びに大いに生かしていけることもたくさんあると思う。

本当にたくさんの貴重な経験をしたが、まず、歴史の重みを再確認することができたと思う。多くの戦跡を目の当たりにしたが、戦後66年経った今もビール瓶やトイレ、タンクがそのまま残されているという生々しさに非常に驚いた。林先生の貴重なお話を聞き、そして涙を見て、改めて戦争は悲しみ以外何も生み出さないということを感じた。これらの戦跡を知る人は少なく、資料も見つけることが難しい上に、安全面の問題から行政としても積極的に関わることはできないという現状に、私は危機感を覚えた。林先生のような存在が独自に調査を進め、そして伝える活動をしていなければ、私達だってこれらの戦跡と、八丈島での事実を知ることはなかったのだ。安全面の問題は確かに難しいことではあるが、学校教育の中で資料を配るだけでなく本格的に教えていくなど、行

政としてももっと戦争の事実に向き合ってもいいのではないか。そして、段々と戦争体験者が少なくなっている今、その遺志を継いでいくのは私達の役割である。今までにも被爆者の方にお話を聞いたり、沖縄で戦争体験を聞かせて頂いたりしたが、改めて後世に伝えていくことの使命感を感じた。二度と過ちを繰り返してはならない、そのことをどのような形で伝えていけばよいのか、今後も継続して考えていきたい。

次に、自然の雄大さには本当に感動した。その自然の恩恵をエネルギーや産業にうまく活用し、うまく自然と共存している島民の姿にも触れることができた。クリーンエネルギーも、食文化も、黄八丈も、全て自然の恵みを生かしたものである。本土とはまた違った文化の豊かさに毎日感動していた。また、光るキノコ観察、八丈太鼓、ビーチコーミングなどなど、島の魅力に存分に触れることができて本当によかった。黄八丈体験のときにできた布が届くのが楽しみである。

最後に、仲間との討論と交流である。また、毎晩討論が行われると聞いて、もっと硬いものを想像していたが、段々と自分の考えを素直に言えるようになり、毎晩の討論がとても楽しくなってきた。周りの人たちがエネルギー問題や島で目にしたものについてどのような考えや感想をもっているかを知ることができて、更に理解を深めることができたし、今回の経験をただ「面白かった」で済ませないためにも大きな役割を果たしたと思う。ここで出会った仲間をこれからも大切にしていきたい。

実際に見て学んで、それを更に討論で深め、大切な仲間も得ることができる授業に参加できて本当によかったと思う。先生や現地講師の方々、仲

間に感謝したい。そして、是非次回の「自然と社会と文化」にも参加して、伊豆大島や小笠原も見にいてみたい。

人文・社会系 1年 男子

1、「自然と文化と社会」の目的は、もちろん八丈島並びに大島など他の島の自然について知ることであるが、受講生全員が全員と話したりして交流を深め、討論したりすることや、先生方と本当に近い距離で会話できることなど、座学ばかりの他の都市プロとは全く違うものがある。まとまって作業をするようなこともなく、体験したり、体験しながら考えたりは、基礎ゼミでもできることがないのではと思う。ましては、島に行くという事態、他の授業と全く違ったものではないか、とも思う。私はこの「自然と文化と社会」という授業が、他の授業より一番好きだ。こんな形式の授業が多くあったら、と思う。

2、もっともよかったと思う点は、自分の考えた意見を、様々な学部、学科の人が持つ違った視点からの意見と比較したり討論したりできたこと。自分の視点も広がったし、みんなの関心がどういうものなのかを知ることができた。

3、自分が変わったと思うことは、自分に自信がついたこと。今までは他人からどう思われているかどうかを気にしていたが、素の自分を出しても平気なのだということを感じた。または、ますます他人とコミュニケーションをとれるようになったこと。人と話すことがもっと好きになった。

4、まさに、「自然と社会と文化」。この授業では、それらをすべて学びました。最初はどなるんだろう期待と緊張を感じていましたが、終わってみて、毎日がとっても充実していて、内容も濃く、学んだことも多く、また自分についても新たな発見をすることができて、正直ここまですごくいい授業だとは思いませんでした。ぜひ、今後もこの授業に携わりたいと思っています。

ここで得たことを忘れず、今後の大学生活をますます充実させたいと思います。本当にありがとうございました！

人文・社会系 1年 女子

1、他の科目では活字だけの知識であり、また受身の授業であるため、問題に関しての実感がわからない点が多くある。そのため、どこか他人事のように感じ、深く考えることを避けるようになりがちになる。また、教室でただ座って一人の話を聞いているだけで印象が薄く、記憶から抜けてしまうものが多い。基礎ゼミでは討論ができるが、そこで話し合うときの知識は書面上のものだけで、中身が詰まっているように感じられない。

一方、今回の授業では実際に問題に触れることで他人事ではなく自分も関わりを持たなければならない現実のことなのだを知ることができ、問題に対してより深く考えをめぐらせることができる。また現地の人々や問題に詳しい人々からの話を聞くことで問題の深刻さや様々な感情を知ることができ、自分の考えがより深まり、広がっていくように感じられる。そして、討論をする時の知識が書面からだけでなく、実際に自分の目で見ても

た討論になった。一言で言うと、この授業は「百聞は一見に如かず」という言葉がとても合う授業である。自ら進んで知ろうという気になるため、学習をすることが楽しみの一環になるような授業であった。

2、「総合的な問題認識」を特に意識して学習できた。様々な体験を通して問題を把握していくことができたため、その問題について自分に関わりを持ち考えていこうという姿勢が生まれた。もちろん自分だけでなく他の受講生にもそういった姿勢が見られ、自分も他の人も成長できる点がとても良い点であると思う。また、八丈島での経験は今の年代だからこそ出来るようなことであり、また記憶に残るものだと思う。

3、実際に自分の目で見ても肌で感じる大切さがわかった。今までは自分の足で動くことはせず、書面の知識のみで人間でいわゆる「能書き人間」であったと思う。今回の授業で自分の足で動く大切さを知り、また書面だけで得た知識が覆されることがあるということが分かった。つまり、本を読むだけではいけないのだということが実感できた。

おかれている問題に対して深く考えるようになった。今までは問題を知っても受け流すだけで、深く考えようとするのを避けていた。しかし、自分も考えなければ成らないことなのだということが感じられた。特に、戦跡を実際に訪れ、林さんの話を聞いて戦争について目を背けずに考え、理解していかなければならないと思うようになった。

朝寝坊に気をつけるという意識が強くなった。

4. 普通に生活しているだけでは体験できないようなことが多々あり、とても貴重で中身の濃い日々を過ごすことが出来た。想像していたよりもとても楽しい5日間を過ごすことができた。ほぼ初対面の人々とこれほど仲が良くなるとは思っていなかったし、こういった機会がなかなかないため、交友を広めるという点でも良い経験になった。この授業をきっかけに自分の人見知りをする性格が少しでも緩和されていればいいと思う。

個人的に印象的だったことは、八丈太鼓である。八丈島で最後の体験であり、またとても楽しんで取り組めるもので皆のテンションが最も高かったことが印象的だ。実際に太鼓を叩き、また自分でリズムを打ち出すことがとても楽しく、皆が最も生き生きとした表情だと感じられた。そして最後に聴いた師匠の太鼓が特に印象的だ。彼の打つ太鼓は身体全体に響くような音を生み出していた。胃もたれを起こしそうなまでの音を聴いたのは初めてで、鳥肌が立つほどに感動した。自分も音楽をやっているため、他人を感動させられるような音楽を演奏したいとより強く思うようになった。

この授業を通して、人間の温かさや戦争の悲しさ、ご飯の美味しさ、自然の雄大さや美しさを知ることが出来た。総じて言えば、八丈島の良さを五感で感じられた。

経営学系 2年 男子

1. 「自然と社会と文化」の大きな特徴として挙げられるのが、ほぼ初対面の生徒や先生と数日間寝食を共にする点であろう。普段だと、週に1回90分「学生」と「先生」という立場で、特に学生

は先生の話をつた受動的に聞いているだけである。しかし、「自然と社会と文化」の授業はそれとは全く違う。まず一緒に過ごす時間が桁違いに長い。とにかく長い。そして一緒に行動する機会が多い。下手すれば、隣同士で寝た人と5m以上離れることがほとんどないまま一日を終える事があるだろう。それに、先生達との距離が近い。驚くほど近い。一緒にトランプをして、大富豪で縛ったら舌打ちをされる経験なんて、この授業がなかったら経験することはなかつたろう。

普段では一緒に生活することが無い人たちが、一挙に集まって、一緒に生活をして、色んな経験をする。これが「自然と社会と文化」特有の特徴であり、他の都市プロや基礎ゼミとの大きな違いでもあるだろう。

2. 興味をもったら、進んで聞きに行こうという気持ちが強くなった点。

3. 人を見かけで判断してはいけないと身をもって理解した点。他人と意見交換することに対する恐怖心がなくなった点。

4. 楽しかった です！！

人文・社会系 1年 女子

1. 私が受講していた他の都市プロは、すべて教室での講義のみのものでした。この自然と社会と

文化という授業では、まず、自分が予習してきたところへ実際に飛び込んでいくという点において大きく異なっていました。教室での講義でも、学べることは多いですが、現地へ赴くというのとは大きな違いがあります。高校の頃にも、授業の一環として福島県の桧枝岐村に平家の落人集落があるということで、歌舞伎を観るために何度か出かけて行ったことがありました。今回のこの授業はフィールドワークという点においてはその授業ととても似ていました。暑い中有名なスポットを巡って現地の方から説明を聞く、というところも似ていました。しかし、私が受講していた都市プロでも、高校の頃受けていた授業でも、この授業を受けているみんなの本気さがまったく違ったと思います。みんなはシラバスをしっかり読んで、授業の目的を理解して、本気で取り組んでいました。タイトなスケジュールの中で少しの暇な時間でも真剣に議論していました。真剣なメンバーと多くの議論を重ねることで、シラバスに載っている目的を達成できたと思います。

2、たくさんの人と真剣な議論を交わせたことが、いちばんよかったと思います。文系だから、と逃げているはなにもはじまらないということに気付くことができました。一つの問題に対して、自分の体験に基づいて、多角的な視点から見て考え、多くの意見を聞いて、また考えて、というようなプロセスを経て、問題を解決していくということを学びました。ほとんどの人が初対面で、ほとんどの人と初めて話すにも関わらず、真剣な議論を交わすことができました。議論を交わしていく中で、自分が成長できたと思える部分が多々ありました。よかったです。

3、受講生にはさまざまな人がいました。一人ひとり自分の意見をしっかり持っていて、それについてしっかり考えていました。そんな人たちと何度も真剣な議論を重ねたことで、自分も「考える」ということについて真剣にとりくめるようになってきたと思います。考えることはいまでも苦手だし、自分の考えをうまく発表することはできる気がしないのですが、真剣に議論することの面白さを知ることができました。自分が真剣に取り組むことで、相手も真剣に取り組むようになり、よりよい議論をできるようになるのだと思います。

実際に八丈島という島へ行くことで、予習で文字だけを追っていて、つかんだ気になっていたイメージといくつも相違点があることを知りました。たとえば、くさやのにおい。思っていたほど臭くありませんでした。思ったよりひっ迫している八丈島の財政状況や、島全体が過疎化へ向かっている状況も肌で感じることができました。また、思ったほど観光地らしい観光地という感じではなく、驚きました。八丈島への印象が大きく変わりました。一方、予習してきたことが役に立ったことがいくつもありました。いつも予習なんてやっていなかったし今回もあまり真面目に予習をした気がしませんが、予習の大切さに気付けたと思います。

また、わたしは海が苦手だったのですが、島が狭くて海がずっと見えていたせいか慣れて、大丈夫になりました。最初のフェリーは怖くてどうしようもなかったけど、最後のフェリーでは楽しく過ごせました。

4、楽しかったです。友達が増えてうれしかったです。ご飯もとてもおいしかったです。たくさん残しちゃったけど。こんなに真剣に議論する機会

なんていままでほとんどなかったし、こんなに真剣に自分の意見や他人の意見について考える機会なんてほとんどなかったの、すべてがとても新鮮でした。クーラーを使うのにお金がかかるのも初めてでした。疲れてなにもかもめんどくさくなって仮病を使おうと思ったことが何度もありましたが、最後まで真面目に取り組めてよかったです。

機械工学 1年 男子

1、この講座と基礎ゼミナールやほかの都市教養プログラムとの違いは、島という一つの環境を通じて、学問が日常生活において密接に関係していて、学ぼうとすればそのほとんどが研究対象になりえるということが身近にたくさんあり、なおかつそれを実際の体験を通して学んでいく点であると思う。そして、その環境のなかでの発見は一つの学問ではわかることはごくごくわずかだけれど、さまざまな学問を通すと、その側面の一つ一つが大きな意味を持つことがわかる。まず一つのものごとに対していろいろな角度からの見方があるのを知り、そのうえで自分がどれかを究めていくということは、進路選択の際にとっても有意義なものになると思う。今までは座って聞くという消極的だった学問が、体験しながら学ぶという経験をして、本来の学問の感動や不思議さを実感できる講座だと感じた。また、生徒同士で寝食を共にすることで、互いに切磋琢磨できる環境も普段の授業ではできないことだと思った。

2、私は機械工学コースに属しており、ほとんど人文・社会系の授業を受講しておらず、また交友関係も学問の狭い環境なので、文系、理系の枠を

超えて一つのものごとに向かう作業は充実していた。同じ物事を全く違う視点でとらえる人がいて、それを話し合ったり、疑問点やわからないことを先生や生徒同士で話したりすることで解決したり、新しい疑問が生まれたりして、単純に面白かった。学問って本来このようなことから始まっているのかな、とも感じた。自分で発見した問題が、思わぬところに帰結したり、また違う方向へ疑問が飛んで、一つのものごとに対して、いろいろな面からみることができたのでよかった。

3、普段の授業では座学なので受け身だったが、今回は積極的に授業参加できたと思う。この講座を通して、受動と能動で得られることの大きさの違いが分かったので今後に生かしていきたい。また、メモを取ったり、知らない人にあいさつしたり、普段あまり気に留めていないことが重要で、自分はできていないということを実感した。何より一番変わったのは、私は生まれも育ちも東京なので東京が普通と思っていた部分があったが、実は東京は自然ではなくて、むしろ八丈島のような緑に囲まれている生活がほんの少し前までの東京もそうであったのに、東京は違いすぎると感じた。都会は人間にとって都合がいいように作られているという利点があるが、その逆に問題点もたくさんある。たちが悪いのは、東京で生まれた利便性は東京で恩恵を受けて、問題点や、悪いところは東京にとどまっていないところだと思う。今回八丈島に行かせてもらって、町役場などで聞かせてもらった話から考えると、抱えている問題は紛れもなく都会が生んだ弊害のように感じた。これから、個人としても社会としてもいろいろなことをしていくと思うが、きちんと影響を考えたいうえで

実行に移すということが重要だということを知らされた気がした。

4、忙しかったけど、楽しかった。普段他学部の人と交流することはほとんどないので、貴重な体験だった。また、同じ東京都でもこの機会がなかったら多分行かなかった八丈島に行けてよかった。ただ、ダイビングはしてみたかった。

もっと最初はスローなイメージがあったけど、車もたくさんあって、品川ナンバーなのがなんか不思議な感じがした。個人で旅行に行っても今回ほどたくさんの情報を聞けることはなかったと思うし、先生や生徒同士で建設的な話ができしたのはよかった。まじめな話だけじゃなくて、くだらない話もできて楽しかった。自分たちではきっとこのような緊張感がありつつも、その中においていい意味で楽しもうという空気を出せないと思うので、もし参加するかどうか迷っている人がいたら参加するように勧めたいと思う。なにより、自分の五感で感じてそれが学問につながるという経験が初めてで、しかもそれがとても面白かったのでこのような機会にはもっと巡り合いたいと思った。いろいろありがとうございました。

経営学系 4年 男子

1、この授業の最たる特徴はなんといっても体験型授業であることである。実際に自分の目や耳といった五感を通して学べるというのがなによりも大きく、魅力的な所である。様々な学部を専攻する受講生がそれぞれの視点から自分の五感で感じ、考え、疑問を持ち、それを教授や地域の方々を交えて共有することで、いままで自分が触れたこと

がないような考えに触れることができ、各個人にとってかけがえのない刺激になることは言うまでもありません。

他の都市プロや基礎ゼミのように、教授に教えられたことをそのままに頭にインプットしていく受け身の形とは違い自らが積極的に考え、自らの疑問をすくいあげていく。また、普段はほとんど接する機会のない他学部の教授とじかに接することができるのはまた大きな特徴であると私は考える。自分の専攻以外の教授のお話を聞くことで新たな視点にきづき、それが自分の専攻分野に対してのさらなる発見につながることも大いに考えられると思います。教授との交流会みたいなものがあれば尚更よかったと・・・笑

2、この授業を受講してもっともよかったのは自分では考えもしないような考え方に触れることができたことである。他学部の教授の話はとても新鮮で、非常に面白かったです。

3、一番大きく変わったのが伝統文化に対するとらえかたである。中でも黄八丈の説明の時に菊池さんがおっしゃった「日本では黄八丈は滅びるけれど、フランスでは続いていく笑」という言葉が非常に印象的でした。次々と新しい文化が生まれてくる世の中で、素晴らしい伝統文化が次々となくなっている現状において、では自分たちはどうすべきなのだろうとその言葉を聞いて思いました。素晴らしいものだからこそ今までこうして残っているわけだし、かならずしも新しいものがないとは限らない。ではこれから私たちはこの伝統文化にどうやってむきあっていけばいいのだろうか。そんな当たり前の疑問に対してしっかりと向

き合っていなかった自分に気付かされた。

4、今回、このような貴重な体験の機会を下さった先生方、八丈島の方々、TA、そして共にこの授業を受講した学生に対して、深く感謝の意を表します。4年生という他の学生からしたらやりずらいような立場である私を暖かく輪のなかにいれて頂き、非常に感謝しています。できれば、もうすこし若い学年のときにこの授業を受けていればよかったですと後悔すらしています。実は妹が大島海洋国際高校の生徒であったということもあり、前々から伊豆諸島にたいしての興味はあったのですがなかなか機会に恵まれずに今回の参加になりました。これからも、この授業を継続して行って下さい。こんな素晴らしい授業は他にはありません。

都市政策コース 2年 女子

1、自然と社会と文化は他の都市プロ等と違い学ぶに際し分野的壁がない、つまり学びに限界がない。他の都市プロは授業内容がもちろん決められていてそれに伴い学ぶ内容や分野が定められている。例えば社会学の授業をとったら生物のことは学べない。だが自然と社会と文化は違う。自分の興味や意欲しだいで何でも学べる。そして自分の意思のままに行動できる。そして自分が求めた分だけ自分にかえてくる。学びの量に学びの領域に制約がない。そして他の都市プロのように教授つまり人から学ぶだけでなく、無生物のもの、海や山そしてそこに住む生き物すべてから様々な体験を学ぶことができる。他の授業のように必ずしも教授から一方的に学ぶとは限らない。様々なものとの相互作用によって頭だけでなく体で学べる。他の授業はみなが同様のことを学ぶが自然と社会

と文化は受講生の分だけ学びの形、学びの可能性がある。

2、最も良かった点は自ら考えること、自ら行動することの大切さに気づけたこと。これまでなんとなく周りの流れにのり淡々と大学生活をすごしてきた私にとってこの野外授業はとても貴重な体験になった。自分で歩き、自分の目でみて、思ったこと考えたことを仲間や先生方と共有してみても自分で考えること、思いのままに行動してみることがいかに大事かということをもっと体験した。自分で考えたからこそ知りえたものはたくさんある。自分が行動をおこさなければ何も残らない。自分で何か行動をおこしたことで感じることでできたり、知ることができたことは自分の中に財産として残るのではないかと思う。また何回か行ってきた議論を通して自分の考えを深めることができたし自分の考えに新たな視点を取り入れることができた。今まで自分が議論というものに対して否定的であったのは自分の考えや意志が弱く、議論というものが他人の考えを聞き入れる場にか過ぎなかったことに気づいた。自分をしっかりと望む議論はこれほどまでに考えさせられるのかと驚いた。自ら考え、自ら行動することの大切さを痛感でき本当に良かった。

3、自分が変わったと思う点は学びに対して積極的になれたこと、学ぶことが楽しいとさえ思えるようになったこと。今までは授業内で与えられた課題や言われたことをただこなしているだけであつたし、自分自身それで満足していた気がする。それ以上を求めようと思ったことはなかったし、求めてその先に何があるのかとさえ思っていた。

しかしこの5日間を通し課題を自ら見つけそれを解決するために自ら行動する機会を与えられ、周りの仲間たちや自分の疑問に対して一緒になって考えてくれる先生方のおかげで自分は学ぶことに積極的になれた気がする。学べる範囲、学べる内容が決められていないこの授業で自分から学びたい、知りたいと思うことを追求していくうちに自分自身学ぶことを楽しんでいたと思う。学びと楽しさは並立するものではないと思っていたが学ぶことで得られる楽しさがこんなにあることを5日間で気づかされた。そして学ぶ楽しみに気づけたことで自分自身も変わったのではないと思う。

4、はじめは正直疲れたなとか休憩したいなとか弱音を吐くこともあったけど最後にはもっといたい、もっと島を歩き回りたいと思う自分がいた。いつも集団の後ろを歩いている私が気づいたら先頭を歩いていたたり、暑いのが苦手な私がビーチコーミングで休むことなく無我夢中でお宝を探していたりして自分でも驚くことがいくつもあった。今までは自分はこんなもんだとか、これくらいできたら満足だなどと自分の限界を決めていた気がする。周りがどうか、ここがどこだからとか関係なくとにかく何も考えずに自分の思いのままに行動してみるのはすごく楽しい。そして思いのまま行動して得たものが実は貴重な経験だったりする。八丈島では自分が感じたことをそのまま口に出していた気がする。今振り返るとコウモリをみて叫んだり、みんなで酢飯を握ったりすべてがいい思い出。中でも夕日が沈むのをみながらみんなで叩いた八丈太鼓は最高だった。人は景色を見て、伝統に触れてこんなにも感動できるのかと思った。ここでの感動は一生もの。本当にこの授業を受講

してよかった。仲間や先生方や島の方すべての人に感謝したい。この5日間で経験したことすべてを吸収しきることはできなかったと思うけどここでの経験をきっかけに自分自身が少しでも変わったらと思う。ありがとう八丈島！！

人文・社会系 1年 女子

1、他の都市教養プログラムや基礎ゼミナールは講義形式の授業が多く、受け身で授業を受けることが多い。中にはテストもレポートもなく、漫然と授業に出席していれば単位を取得できたり、最終授業にだけ出れば単位が取れてしまうような授業もある。こういった授業に欠けているのは、自ら思考したり、自分の意見や考えを述べ、教員や学生同士で議論をする時間である。その点、この「自然と社会と文化」では常に自分が体験し、見聞していることについて考えている必要があると感じた。というより、どの見学先でも興味深い話を聞くことが出来、意識せずとも思考していた。さらにそれを発表し、議論する時間もあるので、自分には無い意見を聞き、自分の考えを深めることもできる。

2、「物事を総合的に判断、考察する」という過程を味わうことができたのはとてもよかった。以前は物事一つ一つを断片的に見ることしかできず、総合的に判断するということがよく分かっていなかった。が、今回の八丈島での実習でその過程を

肌で感じる事ができた。自然と文化、そして地域社会が密接に関係して八丈島が作られているのだということが分かった。

これは八丈島が離島というある種閉鎖的な空間であることも関係しているのだと思う。

3、あらゆる場面で行われた討論の中で、自分とは違う意見を感情的にならずに受け入れられるようになったのではないかと感じた。他社の意見を「聞き、受け入れる」ことと、その意見を「飲み込み、自分の意見にする」ことは全く違うということ、当然のことだが強く実感した。原発に関して、自分の視点・考えを持って、簡単には意見を曲げずに議論したことはいい経験になった。他者の意見を聞き、それに合わせて柔軟に考えを変えることができるのは悪いことではないと思っていたが、そればかりではいけないと思った。

4、出発前は船での長旅を考え、八丈島に行くことが億劫になることもあった。また自由な時間がたくさんある夏休みに、(よくない言い方になるが)離島に一週間ほど拘束されるということもあり一時はキャンセルしようかと考えたこともあった。しかし、本当にこの授業を受講し八丈島に行っただけよかったと思う。個人で行ったのでは見ることが出来ないであろう戦争史跡を案内してもらったり、町役場の方とお話しすることができたりと貴重な経験ができた。今までテレビでしか見たことがな

く、漠然と嫌いな食べ物になっていくさやも、実際に食べたことによって好きな食べ物になった。実際に見聞きし、体験することの大切さを知った瞬間だった。普段は接することのない他学部・他学科、他学年の人と話すことが出来、考え方の違いなども感じる事ができたし、文系の私が理系の先生方とお話する機会はこの授業ぐらいでしか無いんじゃないだろうかと思った。さまざまな面でこの授業のメリットを享受し、楽しんだ5日間だった。友人にも来年履修することも勧めようと思う。

物理学コース 2年 女子

1、他の都市教養プログラムでは、その講義名に入っているようなある1つの分野に関するテーマについて理解を深めることが主な目的だが、「自然と社会と文化」では物事を総合的に判断、考察する能力を高めることを目指すとともに学問的領域の枠を超えた総合的な問題認識、討論、課題発見能力の基礎を養うという、全ての学問もしくは人生に通ずる大きな目的を持っていることが特徴の一つである。

また、授業が学外(島)で行われ、2泊3日以上の集中講義であり、実習(見学、体験、観察、調査等)・講義・討論からなっていることや、担当教員が異なる分野から複数人いるということも大きな特徴であると言える。

2、他の授業と異なり、教室から出て現地で見、聞き、体験する学習方法により、様々な面で実感

を持って学ぶことができた。特に戦跡を見学した際には、実際に使われていた壕や基地の中で当時の話を聞くことで、「本当にここで戦争が行われていたんだ」という実感が持てたし、想像の域だが自分がその場にいることで「ここで死ぬかも（殺されるかも）知れない」という恐怖感を感じることができた。教室で同じ話を聞くよりも格段に理解（想像）がしやすかったと思う。今までも戦争には反対だったが、体験することでよりその意思が強くなったし、若い世代にもっと公開していく必要があるという課題も発見できたので、戦跡での講義はとても良かったと思う。

3、まず、2で書いたように、戦争に対する考えが進歩したことが挙げられる。受講前までは漠然と戦争反対だったが、受講後には反対の意思が強くなったうえに、今まで考えなかった“若い世代への戦跡の公開”についてまで考えるようになった。

また、下の学年の人とあまり話したことがなく、年下に少し苦手意識があったが、いざ話してみると差が少ないこともあってかそこまで差を感じず、そのままの自分で接することができたと思う。「年下の文系」は今まで一番関わらない上に苦手意識があったが、今では苦手意識はほとんどない。

更に、帰りの船の甲板から見た広大な空に今までにないくらい感動したことで自分が景色でここまで感動できる人間だったということを初めて知った。

4、とにかく景色に感動した。空の広さ、夕陽の美しさ、海の透明度、星空、流れ星等すべてに感動した。本土ではめったに見ることのできない景色をたくさん見れたことはとても貴重な、良い経

験だったと思う。

次に、戦跡ではごく最近のものであろうゴミ（ビニールや花火）が落ちていたり、テレビクルーが空けていった穴が残っていたのが衝撃的だった。そういうことをする人は入らないでほしいと強く感じた。

また、他学部・他学年の人と接する機会が少ないので、新鮮で楽しかった。みんな様々な経歴を持っていたし、同じ文系でも物理の話で盛り上がった人と「物理」と聞いただけで拒絶する人がいて、人の多様性を感じた。

全体を通して、貴重な体験ができたと思う。この授業を受講して本当に良かった。

人文・社会系 1年 男子

1、この自然と社会と文化の授業は受動的ではなく、能動的に課題や問題を発見することが他の授業と違うところである。また、疑問を持ったことを直接質問し、自由に討論することができるというのは自分にとってかなりプラスになることだと思う。

2、私は討論するという経験をあまりしたことがなく、得意でなかった。しかし、周りの人たちの洗練された意見を聞き、自分ももっとちゃんと意見を持たなければならないという風を感じた。身近な話題に本気になって討論することはとても面白かった。

3、私はとても人見知りで最初友達ができるか不安だった。しかし、いろんな経験をみんなと一緒にしたり、討論することで自然に仲良くなれて、

もっといろんな人と話したいと思うようになった。そして、積極的に話しかけることができるようになった。

4、本当に楽しかった。この授業を受けている人に出会えたことが自分にとって大きな財産になると思う。また行きたいと思う。

インダストリアルアートコース

1年 男子

1、他の都市教養プログラム、基礎ゼミナールと比べて、まず第一に、座学でないことが挙げられる。人や書物から情報を得るのではなく、実際に自分が見て、聞いて、感じて、歩くといった実践形式をとることで、より記憶に残り、自分のものになるように感じた。また、宿泊型の集中講義の形をとることで、毎日を大事にする意識が個人個人に生まれ、個人のモチベーションが高まれば、全体のモチベーションも上がってくるので講義の質も上がるように感じた。ディスカッションや質問の機会が多く、生徒、教員も様々な学部学科であることで、考え方の違いを見つかり、そこから自分のあり方について考えることができたのも良かったように思う。私の受講した基礎ゼミナールでも、そのような形をとっていたが、それと比べると、質問も話す内容も、調べてきたものでなく、直感で思ったことなどがでてきているように思えて、それが新鮮だと感じた。

2、シラバスに書いてある目的通りの知識や能力が得られたように思う。少なくともこの講義を受ける前と受けた後の自分は大きな差があると感じ

ている。特に良かったと思うのが、学問領域を超えた総合的な問題認識、討論、課題発見能力の基礎を養うということで、今まで自分が苦手としてきた部分を少しは克服できたのではないかと思う。何より、異なる学部の受講生たちと意見を交わすことで、新しい考え方、それをいかに自分のものに吸収していくかなどを考えさせられた。

3、受講前と比べると、人と話すことの楽しさを知ったように思う。八丈島受講生は、学科も様々で、留学生もいたりしたので、普段の大学生活では関わらないような人が多かった。普段なら話しかけないと思うような人もいた中でコミュニケーションをとらざるを得なかったため、積極的に話しかけてみたら、思いのほか話が弾んだりしたので楽しかった。先輩、後輩の枠を超えて、真面目な討論をすることで、人の話を聞く力、自分の意見をもつ力がついたように思う。

4、率直な感想としては行ってよかったという思いが強い。行く前は、初対面の人ばかりなので憂鬱だったけれど、行ってみると実際すぐに仲良くなれたし、八丈島自体もとてもいい場所だった。先生と絡む機会も多く、普段の生活ではできないので新鮮だった。また、何より自分がインダストリアルアートコースの学生として何ができるかを強く意識した5日間であり、その中で今後に活かせるような能力が培われたのではないかと思う。今は5日間関わった全ての人に感謝したいという気持ち。

人文・社会系 1年 男子

1、「自然と社会と文化」と、他の講義とを比較した際に見えてくる本講義の特徴として、まず筆頭にきてしかるべきであるのは、やはり「直接体験し、体験しながらも考え、そしてそれを発信する機会が豊富にある」ということである。

「体験」することは、教室で黒板を相手にしては行き届かない思惟に到達するためのプロセスとして必要なものである。現地の人言葉その耳で聞き、自然の豊かさをその身で感じ、壕の無骨さと険しさをその足で踏みしめることにより、言語化できない感情が、感触が、体中をめぐることになる。島の人たちが何を考えているのか、その自然が八丈島にとってどんな存在なのか、壕が観光者にどんな感慨を持たせ、観光資源としてどれだけの価値をもたらすのか。体験することにより、否が応でも、どういったことを自ら考えさせられることになるのである。

そしてそれを自分の中で整理し、発信することができる機会が豊富にあるのが本講義の魅力である。それは地元の人への質問として、受講生同士の何気ない議論として、役所での公な質疑として、夜に行われるディベートでの一意見として発露し、形を得るのだ。

体験・思惟・発信。この三つが一度の講義でバランスよく自ずから可能である講義は、私が知る限りではこの「自然と社会と文化」だけであり、かつその体験・思惟・発信の繰り返しにより結晶した知の結晶を手にし、その実感を持つことができるというのも、この講義ならではの特徴であるように思う。

2、シラバスの受講の目的に照らして、私が本科目を受講してもっとも良かったと思う点は、「物事を総合的に判断、考察する能力を高めること」であり、「人文・社会科学や技術・社会科学系等の学問的領域の枠を越えた総合的な問題認識、討論、課題発見能力の基礎を養う」ことができた点である。そう思うことができるようになった理由を本講義の内容に求めるとすれば、それは様々な学部所属する受講生や、多彩な講師陣、そして多面的な講義内容にあったということができる。

私自身は人文社会系所属の学生であるが、他にも経営系、物理系、機械系、そしてもちろん生命化学系などの、文理入り混じったなかでの議論は、新しい視点との邂逅の連続であり、多角的な視点を持つための基盤を作ったと言っても過言ではなかった。原子力発電の問題を倫理観や政治的視点でしか語ることができなかった自分に対して、生命科学的な長いスパンを考えた視点で考えることを、他学部の彼らこそが教えてくれたのだ。

また、様々な学部の講師の方々のお話をお聞きすることができたこともとても良かった。語学、生命科学、数学、観光学。それぞれの分野の講師の方々が、夜の講義においてのみならず、何気ない会話の中でも披露してくださる新たな知識や視点は、私にとっての興奮剤となって、講義中は絶えず私の中へと注がれ続けていました。

そして、色々な方々と、色々な視点から議論を酌み交わすことができたのも、多彩な視点と知識を私たちに与え続けてくれたこの講義のシステムそのもののおかげであるように感じられます。

3、受講前と較べて、自分が変わったと思う点は、ある事象を学問として捉えようとするとき、単一

的な学問で捉えることは絶対にできないという確信を持つようになった点である。それは、大学の講義において、ある学問の名のもとに色々な事象を観測することに慣れてしまっていた私にとって、革命的な心境変化であり、この講義自体が革命であったと言えることができるかもしれない。様々な学問的視点から一つの事象を見ることの重要性を本講義を通して強く学んだ結果、その確信が生まれたのだと思う。

人文・社会系 1年 男子

1、「自然と社会と文化」を含む都市教養プログラムの特徴として、学生が学部学科にとらわれず参加できるという点があるが、「自然と社会と文化」が特異であるのは、それが授業を担当する教授に関しても言えるということである。普段は決して話を聞くことのない分野の先生の話を知ることができるのは、学生にとってとても貴重な機会である。また学生同士の距離が非常に近く、そのような環境で複数のテーマについて真剣に議論することができるおも、この授業の一つの大きな特徴である。

授業の目的にもあるよう、学生には常に情報を集め質問、意見していく姿勢が求められる。これも教室で行う授業ではなかなか行いにくいことである。

2、シラバスにある目標を、私は完全ではないにしろある程度は達成できたと考えている。その中で最も良かったのは、様々な日本や八丈島の課題について学生や先生方と真剣に議論することができたことである。原子力発電についての課題では、

原子力を続けるか廃止するかについて様々な意見を聞くことができたし、たとえ答えが出なくともそれについて考え話し合うことが大切なのだと分かった。八丈島の現状と未来に関する議論では、島の観光、高齢化、情報発信などについてみんなで考え、そこでまとめた質問を実際に町の行政に携わっている方々にぶつけることができたのは、またとない経験であったと思う。

3、事前学習などを通し、八丈島に関して私はだいたい内容はつかめたと思っていた。だから黄八丈やくさやに関しても、現地で新たな発見はあまりないだろうと予想していた。しかしその予想に反してまだまだ知らない、現地でないと分からないことがたくさんあった。このことから私は、実際に自分で見て体験するということが、とても大切なのだと考えるようになった。これからはインターネットや文献などで得られた知識だけに満足せず、自分の体で実際に体験することをできる限り心がけていきたい。

4、今回の授業で八丈島に行き、多くの発見があった。まず船から見える海の色からして、本土と八丈島に関しては違っていた。私が事前に八丈島に関して抱いていたのは、ただの田舎の離島の観光地というものだったが、八丈島には本土では見たことのない植物が生い茂っていて、この島の気候が特殊なものであるということが実感できた。また一つもコンビニがないことや、本土で見知ったチェーン店などが見当たらず、離島の特異性を見ることができた。そして最も予想に反していたのは、島での観光に対する関心の低さだった。離島＝観光が経済の主力といった今までの自分の常

識が覆った。

島の人々との触れ合いも貴重な体験となった。島のガイドを務めてくださった二人の先生をはじめ、島に住む人々には多くのことを教わった。また八丈高校の生徒たちには、こんな田舎で生活しているにもかかわらず、おそらく自分の高校時代よりも生き生きとした姿を見せてもらい、若者が育つにはこのような環境のほうがよいのではないかと思った。みんなで議論し合ったことも含め、この授業での経験は本当に有意義なものだった。

人文・社会系 1年 男子

1. 前期に受けたほかの都市プロや私が受講した基礎ゼミナールと比べると、この自然と社会と文化が一番首都大学東京らしい授業でした。三つのコースになっている伊豆大島、八丈島、小笠原はどれも東京都の島で、私も含め、多くの受講生はこの授業に参加するまでそれらの存在すら知らなかったようです。私はこの授業の目的の一つとして受講生のみんなに東京の島について知ってもらうというのがあったのかと思いますが、こういう目的の都市プロはないのかと思います。他大学の知り合いに首都大学のいいところとして堂々と言える授業だと思いました。

また、授業の進め方として、受講生同士で常に議論しながら、勉強するところが、基礎ゼミナールと似ていましたが、この授業は本当に現地で自分の目で見て、耳で聞いて、すべて直接体験してみるところがすごかったです。また、担当教員が複数いたことも何か疑問があったときにすぐ近くにいる先生に聞いてよかったです。また色々な分野の教員がいたことも素晴らしかったです。

2. 大学に入ってから、大学の授業ってあまり面白くないなとあまり役に立ちそうにないなと思っていたのですが、この授業は本当に楽しくて、これからの人生に大きな影響を及ぼすような授業でした。また、いつもと違うことをすることによって、自分の別の面も見ることができました。そして、何よりも新しい先生方や学生に知り合ったことが一番の収穫だったと思います。

3. 小さいころから母が人は謙虚でなきゃだめだよとよく言っていたので、それをいつも気にしていたつもりでしたが、それをちょっと忘れていたような気がしました。その辺のこともこれから色々考えながらやっっていこうかなと思いました。また、人は見た目で判断されがちだと思いますが、見た目で判断したものが必ずしも合っていないなというのわかりました。また、大人、特に大学の教授に対する印象が変わりました。すごい身近な存在になりました。

4. 一人暮らしで、長い夏休みで疲れていたころのタイミングのととてもよい授業でした。いろいろな人と触れることができるとてもよかったかなと思いました。よく大学には色々な人がいるという話を聞きますが、今回そういう人に会えた気がします。普通の授業では大学に入る前に何をしていたのかなどは教えてもらえないと思いますが、そういうのもお互い打ち明けたりしました。ずっと記憶に残るようなとてもいい授業でした。

すごくできの悪いレポートになってしまい、本当に申し訳ないです。今回の授業でほかのだれよりも得たものが多かったと思っています。そして、とても感謝しています。

発行者：首都大学東京傾斜的研究費全学分（特徴ある教育プログラムを目指す研究）
『社会貢献力・国際貢献力を持つ骨太な学生の育成を目指した多面的な学外教育
プログラムの開発—その定常プログラム化を目指して—』
平成21年度-22年度（代表 健康福祉学部 福士政広）

2011年10月25日発行

連絡先：理工学研究科 0426-77-2578

作成・編集：近藤日名子

